

## 主体的に歯と口の健康づくりに取り組む子供の育成

～一人一人の実態に応じた細やかな支援による学校保健の充実～

鹿児島大学教育学部附属特別支援学校  
養護教諭 糸 知子

### 1 はじめに

本校は、小学部から高等部までの知的障害のある子供 58 人が在籍しており、「明るく・仲よく・がんばる子供」を目指す像とし、それぞれの子供の発達の状況や認知特性に応じたきめ細かい指導を実践している。また、大学の附属学校として、教育実習生の受け入れや、教育研究等にも力を入れている。

### 2 主題設定の理由

発達の状況や認知の特性について個人差が大きい本校では、学校保健においても子供たちが自立した生活をするために、主体的に健康づくりに取り組むことが大切であると考ええる。

そのためには、子供の姿を捉える際に、集団として統計等の結果による全体指導だけでなく、子供の日常の姿や、保護者、担任等との情報共有による一人一人に対するより丁寧な実態把握と、その実態に応じて学校内外と連携した細やかな支援が必要ではないかと考え、本主題を設定した。

### 3 子供の実態

本校の子供たちは、明るく活発で何事にも懸命に取り組むことができるが、見通しをもつことが苦手だったり、不安なことがあると活動が滞ってしまったりすることがある。

歯科保健に関しても、学習の場や、歯磨き指導の時間には、自ら進んで取り組もうという姿が見られる。しかし、知的障害のある子供たちにとっては、歯科検診を始めとする健康診断は、保健室で、学校医等が体や口を触るといふだんの授業とは大きく異なる体験であり、恐怖心を抱いたり、見通しがもてず

に不安になったりすることも多い。その結果、正しく検診を受けられない場合が生じる。

また、各家庭においては、乳幼児期から子供の成長に合わせた支援や健康管理がされており、歯に関しても、仕上げ磨きや定期的な歯科受診を行っている家庭が多い。一方で、病院への恐怖心から、病院受診自体が困難な子供もいる。

### 4 取組の実際

歯と口の健康について子供たちが主体的に取り組めるよう、次に示す取組を行った。

#### (1) 学校内の連携

##### ア 保健教育

##### (ア) 教科等

- ・ 小学部「日常生活の指導」
- ・ 中、高等部「保健体育」
- ・ その他の教科(国語, 自立活動 等)

##### (イ) 保健だより・掲示



【小学部 からだのじかん】



【保健室前掲示】

子供たちが興味を持つことを最優先し、保健だよりはインパクトのある紙面を、掲示は触れたいくなるような操作性のある教材を意識し、作成している。

##### (ウ) 食育との関連

給食では、発達の状況や特性に応じ、食材の大きさや配膳を工夫している。また、栄養士と連携し、食育の日や、11月のいい歯の日の給食献立に、「かみかみメニュー」を取り入れ、保健だより等でレシピの紹介をしている。

##### イ 保健管理

##### (ア) 定期健康診断

主体的に、正しく歯科検診を受けられるように、事前指導を実施している。地区研究で作成した資料を参考に事前指導資料「歯科検診の受け方」を作成し、各学級で活用することで、検診

の意義や受け方を学び、見通しをもって検診を受けられるようにした。

また、検診に恐怖心を抱く子供については、個別に歯鏡等の検診器具を事前に貸し出し、保健室



【個別の事前学習後の歯科検診】と器具に段階的に慣れるよう繰り返し練習することで、歯科検診当日、学校医の前で自ら口を開けることができた。

#### (イ) ICTを活用した歯磨き指導

実態や興味に応じたアプリを使って、子供たち自身がタブレットで楽しみながら歯磨きに取り組めるようにしている。

#### ウ 組織活動

##### (ア) 保健給食委員会

- ・ 歯磨き週間の歯磨きポスター作成。
- ・ いい歯の日にちなんだ動画教材作成と全校への発信。



【給食時間の動画視聴】

##### (イ) 学校保健委員会・PTA保健部会

- ・ 学校保健委員会におけるテーマについて保護者と職員での協議。
- ・ 地区保健大会後の時間を利用した保護者同士や養護教諭との意見交換。

#### (2) 学校歯科医や保護者との連携

##### ア 学校歯科医

定期健康診断では、保護者に事前質問票を提出してもらい、学校歯科医が検診時に回答くださった内容を返信することで、検診結果と併せて各家庭での健康づくりの参考にしてもらっている。また、保健だよりに学校歯科医の写真や指導助言を掲載したり、いい歯の日の動画に出演していただいたりすることで、子供たちにとって親しみのある存在となっている。

##### イ 保護者

保護者とは登下校の送迎時を利用し、情報共有を行ったり、個別の相談受けたりしている。6月、夏休み、冬休みには、家庭で歯磨きやアウトメディア、あいうべ体操に取り組む期間を設けており、各家庭で子供の課題に応じた目標を設定し、結果を記入したり、シールを貼ったりと工夫しながら家族で取り組んでもらっている。

#### 5 成果と課題

- 子供たち一人一人の実態に応じた学習や支援を模索したり、ICTを用いて、子供たちが協働して教材を作成したりすることで、健康に関する興味関心が高まり、健康診断に主体的に取り組もうとするなど、子供自身が健康的な生活に向かおうとする姿が見られるようになった。
- 学校内外と連携することで、知的障害のある子供の実態と課題を多角的に捉え、健康に関する教育的ニーズを意識した取組や、協働による指導ができるようになりつつある。
- 咀嚼や、歯列など、特別支援学校として持つ課題についての取組が不十分である。
- 病院受診や、予防的ケアなど、子供によっては、将来や、社会生活につながる取組までには至っていない。

#### 6 おわりに

高等学校から特別支援学校に初めて赴任し、戸惑うことも多かったが、子供たち一人一人の実態に応じた指導や支援を行うという、特別支援教育の実際を目の当たりにし、教育の原点に立ち返って子供たちを見る機会をいただいた。学校保健に関しても教員や保護者、学校医等、多くの温かい目が子供たちを支えている。今後も、関係機関と連携し、子供たちが現在そして将来に渡って、安心・安全に学校生活を送り、自らの健康を考え行動できるために、今何が必要かを考えていきたい。